

# かづの微生物農法研究会便り

H24.3.1 No.112 (通算)



雪に覆われた「鹿角の萌えみのり」の田んぼにて。

## 鹿角の萌えみのりの田んぼを巡るツアーを実施しました

この冬はいつになく気温が低く雪の多い冬でした。雪自体は農地にとって、ミネラルの供給源であり春に必要な大量の水の源ではあるのですが、全国各地の大雪被害も相当なものだったようです。さてそんななか、当社の「鹿角の萌えみのり」とコラボレーションし昨年一緒に萌えみのりを栽培した声優アーティスト、茅原実里さんの鹿角での足跡をたどるツアー「茅原実里のおもひでなぞり」を観光庁の採択を受け2月18日～19日に実施しました。参加者は大雪報道等の影響もあり少数で、田んぼも季節柄一面の雪原と化しており正直どこからどこまでが田んぼなのか？という見た目でしたが、茅原さんの足跡を辿りつつ鹿角の食や文化を堪能し、様々な体験や生産者との交流を行っていただきました。そもそも米屋の素人案内でしたので十全な案内ができたか悔やまれる気持ちはあります

ますが、このようなきっかけで生産地でもあり観光地でもある地元鹿角を歩いていただけたのは、私たちにとっても非常に励みになる事柄でした。

## 新米表示のふしぎ

収穫したお米はいつまで「新米」なのでしょう？農林水産省告示第515号第5条の4によれば、「(前略)原料玄米が生産された当該年の12月31日までに精白され、容器に入れられ、若しくは包装された精米(後略)」が新米表示できるということになっています。つまり、翌年の元旦以降に精米したものは「新米」ではないということ。逆に、その年の大晦日までに大量に精米・包装しておけば、それらは翌年販売しようが3ヵ月後に販売しようが、「新米」と表示できます。ですから、お米の新鮮さは「新米」表示だけでなく、「精米年月日」の表示を確認するのが良いようです。この辺、なんか納得いきませんが、ただ、精米前の玄米の貯蔵方法によってお米の新鮮さはかなり違ってくるので、これも注意が必要でしょう。

魚、豆、肉、卵などからたんぱく質をバランスよくとりましょう。主菜がないと、いろいろな栄養素の量が十分とれません。

からだの血や肉となる

**主菜**



からだの調子を整える

**副菜**



野菜などからビタミン、ミネラル、食物繊維をとりましょう。副菜は栄養素の調整役ばかりでなく、食事の味や歯ざわりなどいろいろな変化をつけてくれます。

かや熱になる  
**主食**



生活習慣病 予防  
献立考  
「主食、主菜、副菜、食」  
生活習慣病 予防  
献立考  
「主食、主菜、副菜、食」

海藻類、魚、大豆、野菜、日本型  
食習慣  
必要 組合  
使っ、

生活習慣病 予防  
食中心  
食事

ごはんは毎食、しっかりと食へましょう。ごはんは量の割にはエネルギーが低いので、太りにくい食べ物といえます。

**汁**



適塩を心がけて多様な味を楽しみましょう。

# 生産地から

3月も下旬になると、農地はあわただしく作物生産の準備に追われてきます。キュウリ、トマトなどの苗作り、稲の苗床に使う土の準備、りんごやももなど果樹の枝の剪定。農作業は雪どけに合わせて始まるのですが、それはこの土地に生きる動物達が活動を始める時期にもあたります。毎年、ウサギやネズミにりんごの幹や野菜の苗をかじられたり、野鳥達に新芽を食べられたり。雪どけした農地では、動物達との知恵比べ、生き残り競争が行われています。



↑ 明治時代に小坂鉱山が栄えた頃から、毎日公演を続けている和洋折衷木造の珍しい芝居小屋、「康楽館」。この康楽館や旧小坂鉱山事務所がある「明治百年通り」は、国土交通省により美しいまちなみ大賞を受賞した。

↓ なかなか壮観な、芝居小屋の舞台上段からの眺め。芝居の舞台は結構広い。この康楽館では、施設見学を申し出れば誰でもこの舞台裏や役者控え室に案内付きで入ることが可能。



← 特徴的な回転舞台は、昔ながらの手動操作。こんな装置が残っているのは、日本広しと言えどなかなかない。



→ 役者控え室の壁や戸は、有名無名の歴代落語家や俳優、女優たちが残した落書きでいっぱい。武田鉄也、なべおさみ、笑点の楽太郎などなど、実に多彩な出演者の落書きが残る。……よく考えるとこの康楽館、国の重要文化財なのに。



Twitter やってます。  
WEBショップ 安保店長のつぶやき

@ambotencho



かつのイメージキャラクター  
たんぼ小町ちゃん



ぜひ一度  
かつの  
鹿角へ遊びに  
来てみて下さい!

有限会社 安保金太郎商店  
かつの微生物農法研究会  
事務局

文・写真：安保 大輔

康楽館の隣には、純白の洋館「旧小坂鉱山事務所」が立っている。一時は日本一の銅山として栄えた栄華の思い出。

